

$$3 \text{ 点 } A, B, C \text{ が一直線上にある} \Leftrightarrow \exists k: \text{定数 s.t. } \overrightarrow{AB} = k\overrightarrow{AC} \quad (1)$$

.....
 線分 AB を $m:n$ に内分する点を P とする。点 A, B の位置ベクトルを \vec{a}, \vec{b} とすると、
 点 P の位置ベクトル \vec{p} は次を満たす。

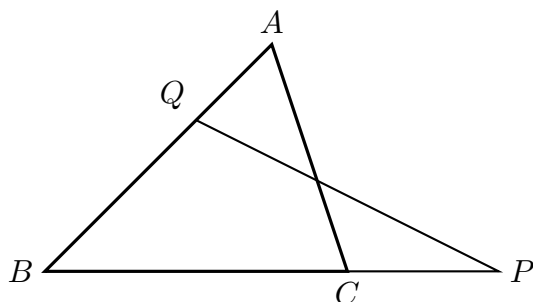
$$\vec{p} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m + n} \quad (2)$$

$\triangle ABC$ において、辺 BC を $2:1$ に外分する点を P 、辺 AB を $1:2$ に内分する点を Q 、辺 CA の中点を R とする。

(1). 3 点 P, Q, R は一直線上にあることを証明せよ。

(2). $QR:QP$ を求めよ。

.....
 ベクトル \vec{b}, \vec{c} を $\vec{b} = \overrightarrow{AB}, \vec{c} = \overrightarrow{AC}$ とする。



(1). \overrightarrow{PQ} と \overrightarrow{PR} を \vec{b}, \vec{c} で表す。

P は BC を $2:1$ に外分した点であるから $\overrightarrow{BP} = 2\overrightarrow{BC}$ である。

$\overrightarrow{BP} = \overrightarrow{BC} + \overrightarrow{CP}$ であるから、 $\overrightarrow{CB} = \overrightarrow{PC}$ である。

R は AC の中点であるから、 $\overrightarrow{CR} = \frac{1}{2}\overrightarrow{CA}$ である。

$\overrightarrow{CA} = -\vec{c}$ 、 $\overrightarrow{CB} = \vec{b} - \vec{c}$ であるから $\overrightarrow{PQ}, \overrightarrow{PR}$ は次のように表せる。

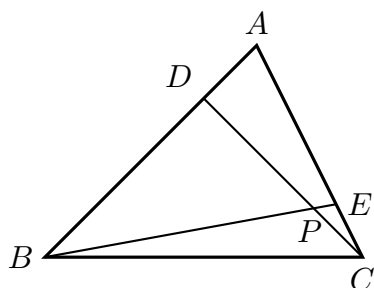
$$\overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{PC} + \overrightarrow{CA} + \overrightarrow{AQ} = (\vec{b} - \vec{c}) + (-\vec{c}) + \frac{1}{3}\vec{b} = \frac{4}{3}\vec{b} - 2\vec{c} \quad (3)$$

$$\overrightarrow{PR} = \overrightarrow{PC} + \overrightarrow{CR} = (\vec{b} - \vec{c}) + (-\frac{1}{2}\vec{c}) = \vec{b} - \frac{3}{2}\vec{c} \quad (4)$$

これにより $\overrightarrow{PQ} = \frac{4}{3}\overrightarrow{PR}$ であるので、3 点 P, Q, R は一直線上にあることがわかる。

(2). $\overrightarrow{PQ} = \frac{4}{3}\overrightarrow{PR}$ より $QR:QP = 1:4$ である。

$\triangle ABC$ において、辺 AB を $1:2$ に内分する点を D 、辺 AC を $3:1$ に内分する点を E とし、線分 CD, BE の交点を P とする。 $\overrightarrow{AB} = \vec{b}, \overrightarrow{AC} = \vec{c}$ とするとき、 \overrightarrow{AP} を \vec{b}, \vec{c} を用いて表せ。



.....
 $\triangle ACD$ と $\triangle ABE$ を利用し、それぞれにおいて \overrightarrow{AP} を \vec{b}, \vec{c} で表す。

$\triangle ACD$ において、 $CP : PD$ を $s : (1 - s)$ とすると \overrightarrow{AP} は次のように表せる。

$$\overrightarrow{AP} = (1 - s)\overrightarrow{AC} + s\overrightarrow{AD} = (1 - s)\vec{c} + \frac{s}{3}\vec{b} \quad (5)$$

$\triangle ABE$ において、 $BP : PE$ を $t : (1 - t)$ とすると \overrightarrow{AP} は次のように表せる。

$$\overrightarrow{AP} = (1 - t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AE} = (1 - t)\vec{b} + \frac{3t}{4}\vec{c} \quad (6)$$

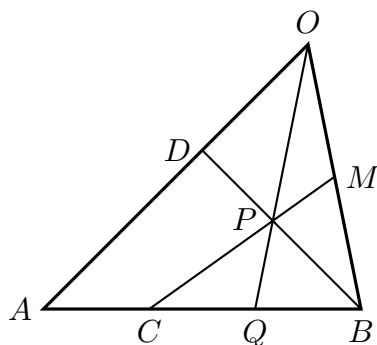
この 2 つの \overrightarrow{AP} の表現より、 \vec{b}, \vec{c} の係数が等しくなるように考えると次の 2 つの式が得られる。

$$\frac{s}{3} = 1 - t, \quad 1 - s = \frac{3t}{4} \quad (7)$$

これより $s = \frac{1}{3}$, $t = \frac{8}{9}$ となるため、 \overrightarrow{AP} は次のようになる。

$$\overrightarrow{AP} = \frac{1}{9}\vec{b} + \frac{2}{3}\vec{c} \quad (8)$$

$\triangle OAB$ において、辺 OB の中点を M 、辺 AB を $1 : 2$ に内分する点を C 、辺 OA を $2 : 3$ に内分する点を D 、線分 CM と線分 BD の交点を P とする。また、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ とする。



(1). \overrightarrow{OP} を \vec{a}, \vec{b} を用いて表せ。

(2). 直線 OP と辺 AB の交点を Q とするとき、
 $AQ : QB$ を求めよ。

.....
 (1). 点 P は線分 BD の内分点である。 $BP : PD = s : (1 - s)$ とすると、 \overrightarrow{OP} は次のように表せる。

$$\overrightarrow{OP} = (1 - s)\overrightarrow{OB} + s\overrightarrow{OD} = (1 - s)\vec{b} + \frac{2s}{5}\vec{a} \quad (9)$$

点 P は線分 CM の内分点である。 $CP : PM = t : (1 - t)$ とすると、 \overrightarrow{OP} は次のように表せる。

$$\overrightarrow{OP} = (1 - t)\overrightarrow{OC} + t\overrightarrow{OM} = (1 - t)(\vec{a} + \frac{1}{3}(\vec{b} - \vec{a})) + \frac{t}{2}\vec{b} = \frac{2(1 - t)}{3}\vec{a} + \frac{2 + t}{6}\vec{b} \quad (10)$$

この 2 つの式の \vec{a}, \vec{b} の係数から次の式を得る。

$$\frac{2s}{5} = \frac{2(1 - t)}{3}, \quad 1 - s = \frac{2 + t}{6} \quad (11)$$

これを解くと $s = \frac{5}{9}$, $t = \frac{2}{3}$ となり、 \overrightarrow{OP} は次のように求まる。

$$\overrightarrow{OP} = \frac{2}{9}\vec{a} + \frac{4}{9}\vec{b} \quad (12)$$

(2). $AQ : QB = m : n$ とすると、 \overrightarrow{OQ} は次のようになる。

$$\overrightarrow{OQ} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m + n} \quad (13)$$

また、 \overrightarrow{OQ} は \overrightarrow{OP} の定数倍であるので、 $\overrightarrow{OQ} = k\overrightarrow{OP}$ となる k が存在する。
 \overrightarrow{OP} は次のような式に変形できる。

$$\overrightarrow{OP} = \frac{2}{9}\vec{a} + \frac{4}{9}\vec{b} = \frac{6}{9} \left(\frac{2}{6}\vec{a} + \frac{4}{6}\vec{b} \right) = \frac{2}{3} \cdot \frac{\vec{a} + 2\vec{b}}{2 + 1} \quad (14)$$

ここから、 $\frac{3}{2}\overrightarrow{OP}$ は AB を $2 : 1$ に内分する点を終点とするベクトルであることがわかる。

点 Q は AB の内分点であり、直線 OP 上の点である為、 $\frac{3}{2}\overrightarrow{OP}$ の終点が Q ということとなる。

よって、 $AQ : QB = 2 : 1$ である。
